

2026年総合労働条件改善闘争

電機産業労使の「社会的責任を果たし得る回答」

副議長 川瀬 浩

富山地協における2026年総合労働条件改善闘争は、電機連合の基本方針である「積極的な『人への投資』を持続し、継続的に実質賃金を向上させ、経済の好循環を確かなものとする」をコンセプトに、全力で取り組んできました。

具体的には、各組合が賃金統一要求基準である「18,000円以上の水準改善額」に基づき、複数回にわたり粘り強く交渉を重ねました。

しかしながら、交渉期間中はイラン情勢の緊迫化により、エネルギー価格や企業収益への影響が懸念され、先行きの不確実性が一層高まりました。その結果、電機大手12中闘組合のうち満額回答は6組合にとどまり、地協傘下の組合にとっては必ずしも追い風とは言えない厳しい環境下での交渉となりました。

そのような中であっても、今年の闘争は、物価上昇が続く中で実質賃金の回復を強く意識した展開となり、企業側にも賃上げの定着に向けた前向きな動きが広がったものと考えられます。

また、3年連続で開催された政労使会議も、賃上げによる経済の好循環実現に向けた機運を高め、企業の対応を後押ししたものと受け止めています。

こうした背景を踏まえれば、経済の好循環につなげるための「大幅な賃上げ」は、来年以降の春闘においても継続的に求められていくものと考えられます。

このことから、来年の春闘に向けては賃上げにつながる環境整備が一層重要となり、私たち労働組合に求められる役割と責任はさらに高まっていくものといえます。今から着実に準備を進めていきましょう。



2025年度「共済実務担当者研修会」

事務局長 大森 仁

4月21日（火）13：30より「ポルファートとやま」にて2025年度「共済実務担当者研修会」を開催しました。11労組20名の書記長、書記、共済担当者の皆さんにリアル参加とWeb対応でのハイブリッド開催としました。

研修会の内容は、まず、福祉共済センターの森川事務局長から、「ねんきん共済」の新規加入手続き・年金給付手続き・受給時の税金の内容とお勧めの受け取り方について詳しい説明をいただきました。また、「けんこ共済」の新規加入手続き・給付金請求手続き等や、電機共済サポートシステムの活用方法についても、けんこう共済仲俣GLから詳細なご説明をいただきました。また、福祉共済センターの山田部長から、「ファミリーサポート共済」の新規加入手続き・各種手続きについて詳細なご説明をいただき、加えて、福祉共済センターの森川事務局長から、「掛金引落口座の設定不備の現状と対策」の説明をいただきました。最後に2026年の共済目標達成をお願いされ研修会を終了しました。

今年度も共済担当者の皆さんから質問・要望のあった内容も盛り込むことができ、引き続き、共済実務の効率化につなげるよう富山地協としても協力していきたいと思っております。



「第97回富山県中央メーデー」開催

事務局長 大森 仁

2026年4月29日（水）10：00より富山国際会議場で連合富山主催の「第97回富山県中央メーデー」が開催されました。

メーデースローガンは、「対話と連帯で築く、平和で笑顔あふれる未来」「真の働き方改革で、安心してらせる社会を！」掲げ、連合富山地協に加盟する組合などから約1,200人が参加し、「世界平和」「全ての仲間の生活向上」「ジェンダー平等の推進」を訴えました。

最後に北陸電気工業労組出身の連合富山地協の古谷副議長がメーデー宣言を行った。その中で、能登半島地震の被災者に寄り添った支援を継続し、これからも支え合い・助け合い運動の輪を広げていくことを確認しました。



第69回

リレーコラム 私のお気に入り

富士電機労組本社支部北陸分会 四十川 純一

私のお気に入りは「コーヒーマシン」です。

2年前に福利厚生の一環で事務所に設置されました。これは当社の製品で某衣料品の大型の店舗のカフェやコンビニで利用されている機械です。

これが1台あるだけで私の会社に向かうモチベーションが急騰し組合員からは働きやすい職場になったという声が広く聞かれるようになりました。日に5杯ほどのコーヒーを飲む私にとってはライフラインとも言える命の機械です。



次回のリレーコラムは、KOKUSAI ELECTRIC 労組の平委員長にお願いします。



電機連合 富山地協ホームページ

<https://www.jeiu.jp/toyama/>

QRコード



電機連合富山地協

検索

編集後記

2026年闘争は、前年に引き続き、良い結果となりました。闘争も終わり、各種大会に向けて準備を進めていきましょう。

(大森)